

北九州市のさらなる学力向上のために

—本年度の調査結果から—



全国学力・学習状況調査

小学校 6年	国語A		国語B		算数A		算数B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
28年度本市平均	10.4/15問	70	5.6/10問	56	12.1/16問	76	5.8/13問	45
28年度全国平均	10.9/15問	73	5.8/10問	58	12.4/16問	78	6.1/13問	47
全国平均正答率に対する割合	96%		96%		98%		95%	
27年度本市平均	9.4/14問	67	5.6/9問	62	11.7/16問	73	5.7/13問	44
27年度全国平均	9.8/14問	70	5.9/9問	65	12.0/16問	75	5.9/13問	45
全国平均正答率に対する割合	96%		95%		98%		97%	
26年度本市平均	10.4/15問	69	5.3/10問	53	13.0/17問	76	7.2/13問	55
26年度全国平均	10.9/15問	73	5.5/10問	56	13.3/17問	78	7.6/13問	58
全国平均正答率に対する割合	95%		95%		98%		95%	
25年度本市平均	10.9/18問	60	4.6/10問	46	14.2/19問	75	7.3/13問	57
25年度全国平均	11.3/18問	63	4.9/10問	49	14.7/19問	77	7.7/13問	58
全国平均正答率に対する割合	96%		94%		97%		97%	

中学校 3年	国語A		国語B		数学A		数学B	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
28年度本市平均	24.3/33問	74	5.8/9問	64	21.2/36問	59	6.1/15問	41
28年度全国平均	25.0/33問	76	6.0/9問	67	22.4/36問	62	6.6/15問	44
全国平均正答率に対する割合	97%		96%		95%		93%	
27年度本市平均	24.4/33問	74	5.7/9問	63	22.2/36問	62	5.7/15問	38
27年度全国平均	25.0/33問	76	5.9/9問	66	23.2/36問	64	6.2/15問	42
全国平均正答率に対する割合	98%		96%		96%		91%	
26年度本市平均	24.7/32問	77	4.3/9問	48	22.5/36問	62	8.2/15問	54
26年度全国平均	25.4/32問	79	4.6/9問	51	24.3/36問	67	9.0/15問	60
全国平均正答率に対する割合	97%		93%		93%		91%	
25年度本市平均	23.9/32問	75	5.9/9問	65	21.7/36問	60	6.1/16問	38
25年度全国平均	24.4/32問	76	6.1/9問	67	22.9/36問	64	6.6/16問	42
全国平均正答率に対する割合	98%		96%		95%		92%	

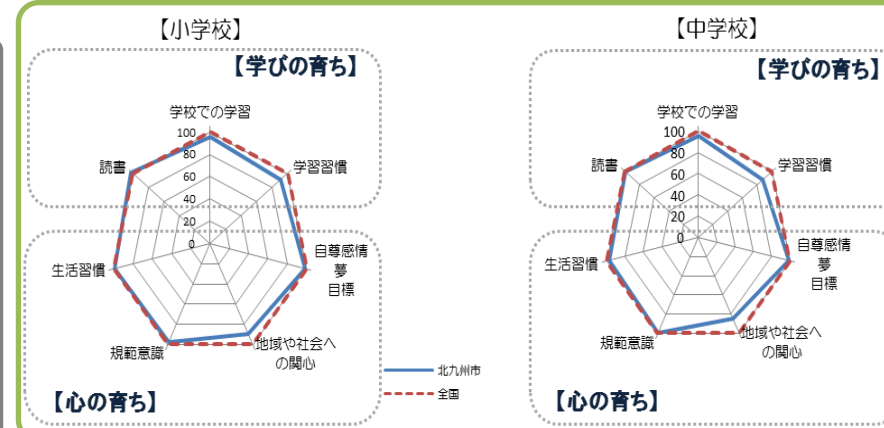
成果と課題（本年度の正答率に見られる顕著な状況）

- 〈成果1〉国語A・B、数学A・Bを合わせた平均正答率は、中学校は改善の兆しが見られる。
 中学校 平成26年度 94%→平成27年度 95%→平成28年度 96%
- 〈成果2〉同じく4つを合わせた平均正答率は、中学校では全国平均正答率を上回る学校が増加傾向にある。
 中学校 平成26年度 12校→平成27年度 13校→平成28年度 14校
- 〈成果3〉小学校国語Bは、昨年度と比較すると改善している。
 全国平均正答率に対する割合の増加 平成27年度 95%→平成28年度 96%
 全国平均正答率より、10ポイント以上低い学校の減少 平成27年度 26校→平成28年度 15校
 全国平均正答率を上回る学校の増加 平成27年度 39校→平成28年度 44校
- 〈課題1〉各教科・区分を合わせた平均正答率、小学校では昨年度と比べ、全国平均正答率を上回る学校が減少した。
 小学校 平成26年度 39校→平成27年度 44校→平成28年度 38校
- 〈課題2〉中学校は昨年度と比べて、全国平均正答率より、10ポイント以上低い学校が増加した。
 国語A 平成26年度 6校→平成27年度 1校→平成28年度 3校
 国語B 平成26年度 11校→平成27年度 2校→平成28年度 10校
 数学A 平成26年度 19校→平成27年度 8校→平成28年度 12校
 数学B 平成26年度 17校→平成27年度 8校→平成28年度 11校
- 〈課題3〉中学校数学は、他の教科・区分に比べて、全国平均正答率が低い状態が続いている。
 数学A 平成26年度 93%→平成27年度 96%→平成28年度 95%
 数学B 平成26年度 91%→平成27年度 91%→平成28年度 93%

学校質問紙および児童生徒質問紙より

	質問項目
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。
	家で、学校の宿題をしていますか。
	学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
学校での学習	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。
	授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。
	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。
	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。
読書	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。
	読書は好きですか。
生活習慣	朝食を毎日食べていますか。
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。
	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）
規範意識	学校のきまり・規則を守っていますか。
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。
地域や社会への関心	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。
	自分には、よいところがあると思いますか。
自尊感情・夢・目標	将来の夢や目標を持っていますか。
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

平成28年度 本市と全国との比較



児童生徒質問紙から、「学びの育ち」と「心の育ち」に関係の深い質問項目を選び、子どもたちの質問に対する回答状況を数値化し、指標としています。

「学びの育ち」について

家庭での学習習慣の定着については、H25年度の取組状況と比べると小中学校ともに伸びてきているものの、全国と比較するとやや下回っている。小学校では、「学校の宿題をしている」項目が全国とほぼ同程度である。学校ごとに宿題プリントを作成したり、学年ごとに家庭学習の時間を示すなどの取組が継続して行われている成果である。

また、「自分で計画を立てて勉強している」項目については、「あてはまらない」と否定的な回答をした児童生徒が全国と比較して6ポイント程度高い。今後、児童生徒が意欲的に家庭学習に取り組み、学習習慣の定着を図っていくためには、宿題や自主学習を課した後の確認・評価を徹底することが重要である。

学校での学習については、「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を示したり、授業の最後に学習内容の振り返りを行ったりする」取組が小中学校ともに全国を上回っている。3年前の取組状況と比べると小学校では約6ポイント、中学校では約13ポイント伸びてきている。授業改善に向けた取組の成果である。

ただし、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」ことについて肯定的に回答している児童生徒の割合は、3年前に比べて伸びてはきているものの、全国平均には至っていない。今後は、授業展開における話し合いの場の設定を工夫したり、話し合いの質的向上を図ったりするなど、アクティブ・ラーニングの視点をとり入れた授業づくりを行うことが重要である。

「心の育ち」について

生活習慣での「就寝時間」については、肯定的な回答が増えているが、「朝食の摂取率」については、全国平均を下回っており依然として課題である。「メディアへの接触時間」は、小6中3とともに、全国平均を上回っており、ゲームをする時間は増加傾向にある。これについては昨年度から引き続き本市の課題である。PTAやいじめ防止サミットin北九州などで「ケータイスマホ 夜10時電源OFF運動」への取組を啓発しており、各家庭で話し合っただけでルールを作るなど、より一層、具体的な取組が求められる。

規範意識・地域や社会への関心での「学校のきまり・規則」については、各校の取組により、改善傾向が見られる。また、「地域や社会への関心」については、肯定的な回答の割合が、小6中3とともに全国平均を下回るが、小6では昨年より増加している。引き続き、地域との連携を図り、児童生徒が地域の一員であるという自覚を育むことが大切である。

自尊感情の「自分には、よいところがある」については、H25年度の取組状況と比べると、小6中3ともに肯定的な回答が増えている。一方、「将来の夢や希望を持っている」については、「当てはまる」と回答した小6中3がともに減少傾向にある。今後も、学校・家庭・地域での様々な活動を通して、児童生徒が自己有用感を実感したり、達成感を味わうことができたりする機会を設けていくことが大切である。

北九州市 学力・体力向上アクションプラン（学力・体力向上） —21世紀を生きる子どもたちのために— 平成28年度～平成30年度

【柱1】全校体制でのPDCAサイクルの確立

- PDCAサイクルに基づく学校の組織的な取組の推進
 - ・各学校における全校体制の確立
 - ・学力調査等の実施と児童生徒への指導の充実
 - ・調査結果等に基づく「スクールプラン」の策定・実施・検証・改善
- 〈教育委員会の支援〉
 - ・学力向上学校訪問の充実
 - ・学力向上講習会の充実
 - ・教育センター研修の充実
 - ・シンポジウム・懇談会等の開催
 - ・「北九州市学力向上だより」による情報提供
- 学力・体力向上策をつなぐ教育委員会の体制の確立

【柱2】指導力向上のための日々の継続的な取組

- よい授業イメージの共有と授業を「行う・見る・語り合う・振り返る」活動の日々継続的な実践
 - ・全員研修会及び学校大好きオンラインワン校の公開授業の活用
 - ・動画を活用したWebによる研修の活用
 - ・『わかる授業』づくり5つのポイントのリーフレット及び点検シートの活用
 - ・「教師のしおり」の活用
 - ・総合的な学習の時間、特別活動、道德教育の充実やアクティブ・ラーニング等を推進するための資料等の活用
 - ・授業力向上ステップアップ事業の実施（学力向上推進教員の配置・派遣、評価問題の改善・充実、校内研修の改善・充実）
 - ・教育研究論文の部門等を見直し・授業づくり共同研究の見直し
- 教育活動の一層の充実のための取組の推進
 - ・学校図書館教育の充実
 - ・ICTの活用と英語教育の充実

【柱3】学力定着に向けた協働的な取組

- 児童生徒一人一人へのきめ細かな教育の確立
 - ・学力定着のための学校独自の取組の組織的実施
 - ・学校との連携等による子どもひまわり学習塾の充実
 - ・指導方法工夫改善加配教員等の効果的活用のための工夫
- 学力向上につながる家庭・地域との連携
 - ・家庭学習の指導の充実
 - ・乳幼児期からの望ましい生活習慣づくりなど学びの基盤づくりの取組
- 確かな学力を育む校種間の連携
 - ・小中連携の充実
 - ・保幼小連携の充実

北九州市子どもの未来をひらく教育プラン

本市作成資料

「北九州スタンダードカリキュラム」・「授業改善ハンドブック」・「指導と評価ハンドブック」・「家庭学習チャレンジハンドブック」・「WEB問題（チャレンジシート）」・「活用する力を高めるワーク」・「音読暗唱ブックひまわり」・「英語大好き音読暗唱BOOK Rainbow」・「人権教育教材集『新版 いのち』」・「北九州道徳郷土資料」